

社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会

平成22年度事業報告書

(平成22年1月1日～12月31日)

本年度計画した事業の概要は、次のとおりである。

1. 第61回結核予防全国大会の後援と本会定時総会の開催

結核予防会主催の第61回結核予防全国大会を後援した。

また大会の一環行事として、本会の平成22年度第1回理事会ならびに定時総会を開催した。

なお、本協議会関連の主なる行事は次のとおりである。

【第1日】3月18日(木) ホテルニューオータニ鳥取

イ. 全国結核予防婦人団体連絡協議会平成22年度第1回理事会

ホテルニューオータニ 鳥取 鶴の間 (中) 10:00～10:30

ロ. 全国結核予防婦人団体連絡協議会定時総会

ホテルニューオータニ 鳥取 鶴の間 (西) 10:40～11:40

ハ. 懇談会

ホテルニューオータニ 鳥取 鳳凰の間 16:50～17:35

ニ. 記念写真撮影

ホテルニューオータニ 鳥取 写真スタジオ 17:40～17:55

ホ. 大会歓迎レセプション

ホテルニューオータニ 鳥取 鶴の間 18:30～20:00

ヘ. 研鑽集会

会 場:とりぎん文化会館 梨花ホール 13:45～15:20

主 題:シンポジウム「どうなる!?これからの結核医療」

座 長:財団法人結核予防会結核研究所副所長 加藤 誠也

ト. アトラクション

会 場:とりぎん文化会館 梨花ホール 16:00～16:20

「童謡・唱歌」 岡野貞一記念合唱団

チ. 大会決議・宣言起草委員会

会 場:とりぎん文化会館 第3会議室 16:45～17:45

【第2日】3月19日(金)

大会式典 とりぎん文化会館 梨花ホール 10:00～

特別講演 とりぎん文化会館 梨花ホール ～12:30

「人類と感染症 ～新型インフルエンザを中心として～」

演者:WHO執行理事

日本政府インフルエンザ対策専門家諮問委員会 委員長

自治医科大学 教授

財団法人結核予防会 顧問

尾身 茂

式次第

- (1)開会のことば 財団法人結核予防会理事長 長田 功
- (2)鳥取県知事あいさつ 鳥取県知事 平井 伸治
- (3)結核予防会会長あいさつ 財団法人結核予防会会長 青木 正和
- (4)秩父宮妃記念結核予防功労賞第13回受賞者表彰
- (5)秋篠宮妃殿下おことば
- (6)来賓祝辞 厚生労働大臣
外務省
社団法人日本医師会会長
社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会会長
- (7)議事
①議長および副議長選出
②全国支部長会議および研鑽集会報告
③決議および宣言
④次期開催地決定・あいさつ
- (8)閉会のことば 財団法人結核予防会専務理事 橋本 壽

2. 結核予防関係婦人団体幹部研修会の開催

結核予防関係婦人団体中央講習会を結核予防会との共催により開催した。

地区別結核予防婦人団体幹部研修会を、開催地区結核予防会各支部と地元婦人会との共催のもとに開催した。

結核予防を中心とした公衆衛生知識の向上と、各参加団体会員相互の交流を目的として実施した。

(1)結核予防関係婦人団体中央講習会

期 日：平成22年2月17日(水)～18日(木)

場 所：こまばエミナース(目黒)

参加人数：116名

(2)地区別結核予防婦人団体幹部研修会(5地区)

イ. 北海道地区 (北海道) 7月16日・17日

ロ. 東北地区 (福島県) 11月18日・19日

ハ. 東海北陸地区 (愛知県) 10月21日・22日

ニ. 近畿地区 (奈良県) 10月18日・19日

ホ. 九州地区 (熊本県) 11月17日・18日

3. 結核予防週間の主催

厚生労働省、都道府県、政令市、特別区、結核予防会、日本医師会、健康・体力づくり事業財団並びに本会主催で、平成22年9月24日～30日に実施する。本週間中には、各地域において全国一斉複十字シール運動キャンペーンをはじめとする各種の行事を行うとともに、結核予防への関心を高めた。

4. 教育広報誌「健康の輪」の発行

結核及び公衆衛生全般の知識の向上と会員相互の連携を深める目的で発行しているものであるが、22年度も3月、7月、11月にそれぞれ No.98、No.99、No.100を発行配布した。 A4版 10頁 1回につき33,000部発行

5. 複十字シール運動の後援、実施

結核予防会主催、厚生労働省・文部科学省及び本会后援により実施されている本運動に参加し、結核予防の教育広報並びに資金造成に努めた。

具体的には、以下の2事業を実施した。

(1) 複十字シール運動開始日(8月1日)を中心として、結核予防会本部役員と本協議会会長が厚生労働大臣室を、結核予防会各都道府県支部幹部職員と本協議会各都道府県の会長が各知事室を訪問し、全国及び地域の結核の現状を報告することにより、複十字シール募金運動の意義を理解していただき、各自治体から結核予防思想について広く一般に伝え、一層の普及を図っていただくよう依頼した。

(2) 結核予防週間の初日(平成22年9月24日)を中心として全国一斉複十字シール運動キャンペーンを、結核予防会各都道府県支部との協力の下に実施し、本運動及び結核予防の普及啓発を図った。

6. 国際協力

結核予防会が行っている国際協力事業を進めるにあたっては、複十字シール募金を通じて資金造成に協力する。その一環としての結核対策スタディツアーへの会員の参加を推薦した。

また、結核予防会国際部が行う教育資材等に対しての、資金援助を行った。

期 日 平成22年11月 22日(月)～29日(月) 7泊8日

訪問地 カンボジア

参加者 7名

7. 世界結核デー

3月24日はWHOが制定した「世界結核デー」である。その周知についての広報活動を行った。

8. ストップ結核パートナーシップ日本の後援

国内の結核対策を充実させ、結核低まん延国化を図る。またこれまでの知見を生かして結核が多い地域への支援を充実させる。このため、行政機関、研究機関、市民社会、民間企業などの多様なセクターで構成された連合体を組織し、加盟団体は協調して政治的支援、住民参加を得て日本と世界の結核対策を推進させた。

9. 生活習慣病対策の後援

これまでの僻地・離島を含めた全国津々浦々で結核健診と保健指導を一体として行ってきた経験と実績をこれからの生活習慣病対策に活かすべく、健診と保健指導を中心とする JATA 健康ネットワーク事業を予防会本部支部が組織を挙げて推進している。

今日の国民病となった生活習慣病対策に取り組む結核予防会を支援し、生活習慣病対策を国民運動に高めるよう取り組んだ。

10. COPD事業への取組

COPD共同研究事業を行っている結核予防会が薦めるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)研究事業への協力及び認識と理解を高め、地域住民をはじめとする社会への働きかけをした。

11. 女性の健康週間の協力

厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産科婦人科学会主唱。本会は協力関係団体として取り組む。3月1日～8日に実施する(ただし、地域の実情による期間延長等の変更は差し支えない)。本週間中には、女性の健康に関する知識の向上と、女性を取り巻く健康課題に対する社会的関心の喚起を図るため、各種の啓発事業及び行事等を展開した。

12. 会議の開催

(1) 定時総会

期日 平成22年3月18日(木) 10:40～11:40
場所 ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間(西)
議案 平成21年度事業報告 並びに収支決算 について
平成22年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

(2) 理事会

第1回

期日 平成22年3月18日(木) 10:00～10:30
場所 ホテルニューオータニ鳥取 鶴の間(中)
議案 平成21年度事業報告 並びに収支決算 について
平成22年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

第2回

期日 平成22年12月10日(金)
場所 結核予防会 5階 会議室
議案 平成23年度事業計画(案)について
平成23年度収支予算(案)について
役員選任について
公益法人申請について

【参考】

会計監査

期日 平成23年2月28日
場所 結核予防会 5階 小会議室
監事 神田 アヤ子、藤本 貴子
内容 平成22年度収支決算